

- 2019 John Briggs, F. David Peat 『鏡の伝説 カオス-フラクタル理論が自然を見る目を変えた』高安秀樹・高安美佐子訳 (ダイヤモンド社, 1991年)
原題: Turbulent Mirror.

ハンブティ・ダンプティはつぶやきました。「……もしも私が落ちたら、そんなことはありえないけど、もしそうなったら」、そこまで言うと、きりっと姿勢を正し、偉そうにしたので、アリスは吹き出しそうになりました。「王様は約束してくれたんだ、私が落ちたら……」

「王様のすべての馬とすべての家来を？」と、アリスはうっかり口をはさんでしまいました。

「そうさ、王様のすべての馬とすべての家来をさ」と、ハンブティ・ダンプティは話を続け、「きっとみんながすぐに私を引き上げてくれるのさ、本当だよ……」
——鏡の国のアリス

p. 8

- 2020 Fredric Brown 『現金を捜せ!』井上勇訳 (東京創元社, 1963年, 創元推理文庫)
原題: Mad Ball.

書いておくべきことは、大きな文字で、たったひとつ《おれを飲め》だけでいい。お前さんは読んだことが——読んでもらったことがあるかい。《ふしぎな国のアリス》と《姿見を通して》を」

p. 221

- 2021 Joe David Brown 『ペーパームーン』佐和誠訳 (早川書房, 1973年, Hayakawa Novels)
原題: Addie Pray.

文章を一つ二つ読んだところで、わたしにはそれが『不思議の国のアリス』だとわかった。正直言って、前に二度ほど読んだことがあるからだ。リー少佐から話を聞いて、わたしはその本を買い求めている。しかも、他人の話を総合するに、その物語をすばらしいと思わなかった女の子は世界中でわたしだけしかいないらしい。

p. 253

- 2022 John Dickson Carr 『夜歩く』井上一夫訳 (東京創元社, 1976年, 創元推理文庫)
原題: It Walks by Night.

英語のとっても面白い本で、『不思議の国のアリス』という本でした」

p. 63

- 2023 Michael Crichton 『ジュラシック・パーク』上, 酒井昭伸訳 (早川書房, 1993年, ハヤカワ文庫NV)
原題: Jurassic Park.

「しかも、アリスの帽子屋のようにいかれてる」マルカムがうれしそうにいった。

p. 145